

## 国税局長賞

私にできること

船橋市立行田中学校

第二学年

須長 美 祝

私は授業でフードロスについて調べたことがあります。コンビニから売れ残りのお弁当や、企業から大量の食べ残しが捨てられている写真を見て「なんでこんなにまだ食べられそうなものが捨てられてしまうのだろう。」と驚いたのを覚えています。

日本のごみ総排出量は、東京ドーム一一五杯分にもおよび、そのうち半分は食品廃棄物だそうです。さらにそれを処分するために八千億円から一兆円もの税金が使われていることを初めて知りました。この問題に取り組むために二〇一九年に食品ロス削減推進法という法律ができたそうです。しかし、このような法律ができたとしても食べ残しやフードロスの問題がすぐに解決するのではないと思います。実際に私もフードロスについて調べるまでは、この法律のことを知りませんでした。

私たち一人一人がどうしたら食べ残しを減らせるか意識して行動していくことで、食品廃棄物を処分するために使われる税金を減らしていけるのではないのでしょうか。

まず、私の一番身近なところで考えると給食があります。今年からランチルームの入口に前日の給食の食べ残しの量がホワイトボードに書かれるようになりました。ある日は一六キログラム、また別の日は一八キログラムと二桁にもおよび食べ残しがあることにとても驚きました。食べ残しがあることは知っていましたが、実際に数字で量を見る機会はないので、とてももったいないなと思いました。給食を作ってくださる方に感謝して残さず食べるということが一番大切ですが、限られた時間内に食べきるにはどうしたらいいのかをみんな話し合い、工夫していく必要があるのではないかと思います。

次に、私の家で取り組めることがないか考えてみました。お母さんに聞いてみると、野菜は新聞紙にくるんだり、肉や魚は小分けにして冷凍庫に入れたりすることで保存期間を長く保つようになっているそうです。そうすることで食べ物が悪くなって処分することがないようにしています。また、ごみを減らすことに関しては生ゴミを捨てる時にできるだけ水を切って小さくしてから捨てるようにしているそうです。

食品廃棄分が出るのをゼロにすることは出来ませんが、その量を少しでも減らすための努力は私たち一人一人が必ずできることだと思います。私たち中学生が今払える税金は消費税しかないかもしれませんが、より有効に税金が使われるように自分にできることは何なのかを考え、それを行動に移していくことが大切なのではないかと思いました。